

令和3年2月12日

公益財団法人
オリンピック・パラリンピック組織委員会 様

都議会自民党幹事長
山崎 一輝



オリンピック・パラリンピック東京大会の成功に向けて（要望）

東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の森会長が辞意を表明されました。

これまで、大会開催に向けて先頭に立たれてきた会長としては、ご自身の発言で今後の大会準備に遅滞を生じさせることが、何よりも耐え難く、今回の決断に至られたものと推察いたします。

無論、今回の会長の発言は、「オリンピズムの根本原則」と相容れるものでなく、我が国や東京都が推進している男女共同参画の理念とも異なるものであります。この点で、都議会自民党はこの発言を容認することはできません。

一方、森会長は、これまでのご経験をもとに、多方面にわたって、円滑な調整力と指導力を発揮されてこられました。とりわけ、史上例のない大会延期に際しては、強力な交渉力を発揮され、IOCやIFなどへのサービス水準見直しなど、大会の簡素化に取り組み、経費削減を実現されました。こうした会長のご尽力に報いるためにも、組織委員会の歩みを止めてはなりません。

大会の開催まで、あと半年を切りました。大会の最大の課題である新型コロナウイルス感染症対策に一丸となって立ち向かい、安全・安心な大会を成功に導くためには、早急に、組織委員会、東京都、国、自治体が一丸となったオールジャパンの体制を再構築しなければなりません。

このため、適切かつ透明性のある手続きで新会長を選考し、新会長の下で開催準備に向けた体制を整え、大会の基本コンセプトである「多様性と調和」の実現に向け、女性活躍など目に見える形での取り組みを進めることで、組織委員会の信頼を回復することを強く要望します。

都議会自民党は、大会招致から一貫して東京大会の成功に向けて努力してまいりました。これからも引き続き、関係者と思いを一つにして、大会準備に邁進してまいります。